

《投稿》  
**バーンロムサイ  
訪問記**

田中機械支部

T

「北方のバラ」ともいわれ、歴史性や文化的価値から「タイの京都」ともいわれるチェンマイ。

そのチェンマイの南西約二〇キロにある日本のNPOが運営するHIVに母子感染した孤児たちの生活施設「バーンロムサイ」を五月末、家人と訪問し、併設されたゲストハウス「ホシハナビレッジ」に投宿した。

バーンロムサイの開設は一九九九年十二月、当時タイではエイズによる母子感染や、エイズ孤児が社会問題化していた。

施設に対する差別や偏見の中、三〇名の孤児から施設はスタートしたが、三年で一〇名がなくなるという苦難にも見舞われた。

しかし普及し始めた抗HIV治療薬の投与によって二〇〇二年以降はエイズを発症して亡くなる子供はいなくなった。

抗HIV薬は一日二回、一生飲み続ける必要がある。価格も一人の子供に一月最低七〇〇バーツ

(約二万一千円、一般的な北タイ労働者の月収に値する。)かかる。

薬と検査費用は現在のところ、イギリスの国際NGOオックスファムが提供しているという。

また施設には十八歳までしかいられないが、抗HIV薬は施設を巣立った子供たちにも手に入るようになっているそうだ。

現在はHIV孤児のみならず、貧困から孤児になった山岳民族の子供たちも受け入れている。

寄付金のみでなく、施設を運営するための事業も活発に行っている。

その一つがタイのコツ

トンなどを使用した衣服、かばん、小物などの縫製事業であり、もう一つが前記のゲストハウス運営である。

これらは子供たちが社会に巣立つための訓練にもなり、また雇用の創出にもつながる。

また施設の子供たちと地域の子供たちが寄贈された図書を通じた交流や、サッカーの地域クラブを設立し、ともにプレーすることで差別を乗り越えている。

バーンロムサイとは「ガジュマルの木の下の家」という意味。

大地に大きく根を張り、ある時には日陰に、また



投宿した「土の家」

ある時には雨宿りになるガシユマルの木の下で子供たちが実家のように、また大きな家族のように生活し続けようという理念がある。  
テレビはないがWiFiも通じ、自炊もできる清潔なゲストハウスに投宿し、鳥のさえずりや虫の音に癒され、時々「安

## 2017団結ボウリング大会&交流会

- 日時 7月2日(日) 午前10時～
- 会場 弁天町グランドボウル(オーク1階)
- 申込締切 6月26日(月)
- ※※ 詳細はもちつき実行委員まで

否確認」に来てくれる「タラちゃん」はじめ数匹の猫と戯れるのもよい。  
チェンマイからソントオ(乗合自動車)と地元バイクタクシーを乗り継いでぜひ訪れてもらいたい。

### 港区探索

大阪で初めて市電が走った港区

大阪市内から市電が完全に消えたのは一九六九年ですが初めて走ったのは一九〇三年。その地は港区だったとか。

その年、築港大棧橋が完成、花園橋(今の九条新道)からの間、約五キロを走りました。停留所は一〇か所、片道二六分、定員は四二人。市電が走る前の港区はのどかな風景の中に築港大道路(今のみなと通)がつくられ、その真中に市電の線路が引かれました。

築港大棧橋は海外貿易のために造られました。完成したての頃は大型船の利用が少なく、代わりに夕涼みと魚釣りの市民で賑わいました。市電もそうした市民がよく利用し、運転台の前に釣竿入れを取り付けるサービスをしたので「うお釣り電車」とも呼ばれました。

市電が廃止されバスと共に住民の足となってきた地下鉄。弁天町駅は一九六一年に開業しました。橋下維新はバス路線を大幅に廃止し、後継の吉村が三月議会で黒字地下鉄の民営化をついに決定。地下鉄もバスも市民の財産。勝手に処分するな!!

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう!